

学校評価アンケート集計結果

相馬支援学校長

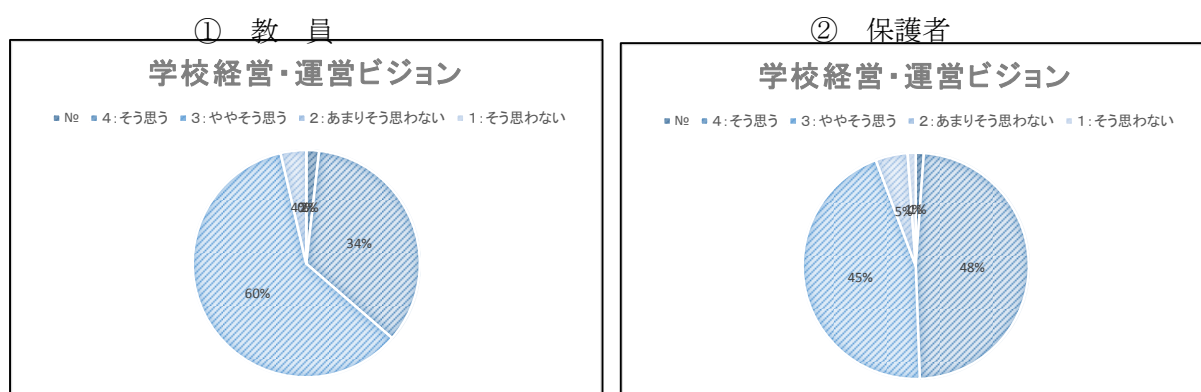
1 平成30年度 重点目標

児童生徒一人一人に応じた学習を通して、知識・技能の習得を図り、深い学びが獲得できるように授業を工夫することで、様々な場面に対応できる思考力、判断力、表現力の育成を目指す。

2 学校経営について

(1) 学校の経営方針について

- ① 教 員：学校の経営方針が各校務分掌組織や各教職員に浸透しているか。
- ② 保護者：相馬支援学校（以下学校）は学校経営・運営ビジョン、教育目標、教育活動を分かりやすく伝えていると思いますか。

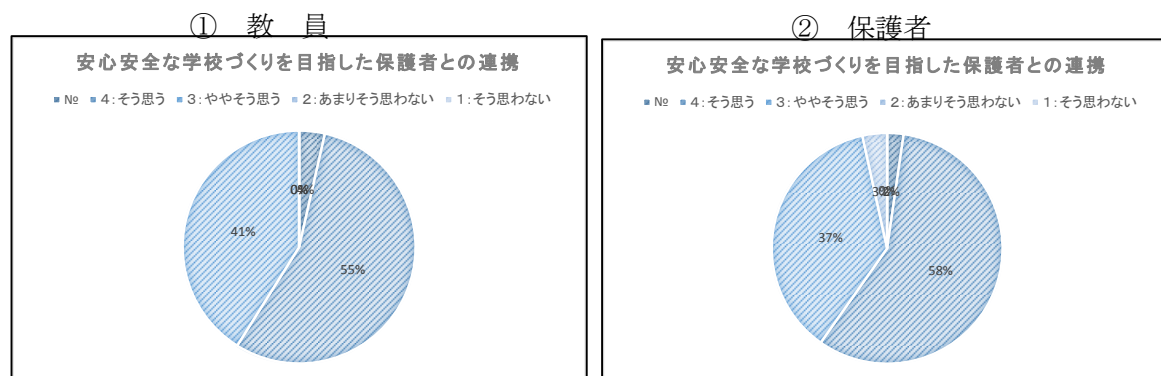


<分析>

3以上の評価が9割を超えているが、その中でも3の回答が多い。管理職によるより丁寧で分かりやすい学校経営・運営ビジョンの説明が必要と考える。

(2) 安心安全な学校づくりを目指した保護者との連携について

- ① 教 員：安心して学ぶことが出来る学校、明るく活気あふれる学校、保護者と共に子どもを育てることができる学校を目指したか。
- ② 保護者：学校は、児童生徒が安心して学ぶことができるように保護者と連携した学校づくりをしていますか。



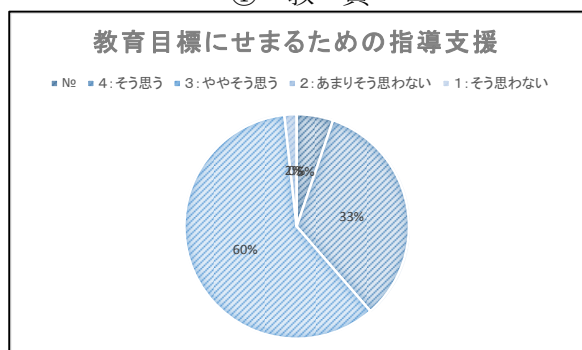
<分析>

3以上の評価が9割以上で4の評価が教職員も保護者も5割を超えている。保護者と連携がとれていると考える。今後とも、保護者との連携した取組みを充実させていきたい。

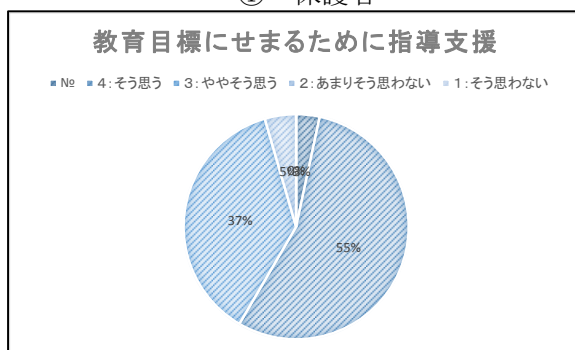
(3) 教育目標を意識した取組

- ① 教 員：学校教育全体をととして、教育目標を意識した指導支援にあたることができたか。
- ② 保護者：学校は教育目標にせまるために、児童生徒に「身につけさせたい力」を明確にして、指導支援をしていますか。

① 教 員



① 保護者



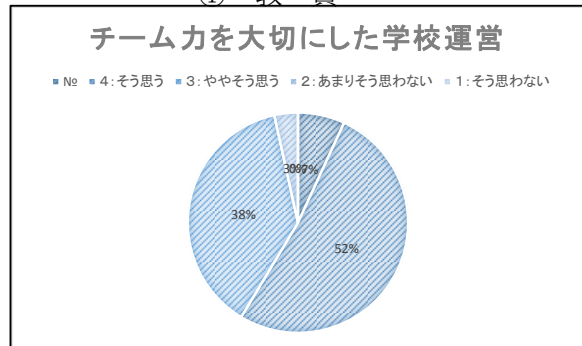
<分析>

3以上の評価が9割以上で保護者の5割以上が4と評価していた。教員の6割が3と評価しているのは、教員は、児童生徒に「身につけさせたい力」をより明確にし、バランスがよい指導支援を実施していきたいと考えているのではと推測する。

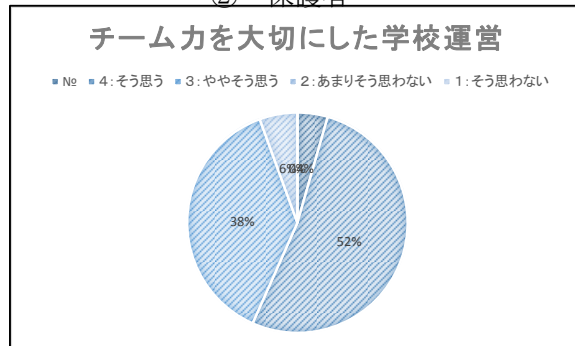
(3) チーム力を大切にした学校運営

- ① 教 員：学校のチーム力を大切にし、児童生徒や教職員の人権を尊重しながら、思いやりをもって指導支援にあたることができたか。
- ② 保護者：学校は、チーム力を大切にして児童生徒、保護者、関係機関、教職員の人権を尊重しながら思いやりをもって指導支援をしていますか。

① 教 員



② 保護者



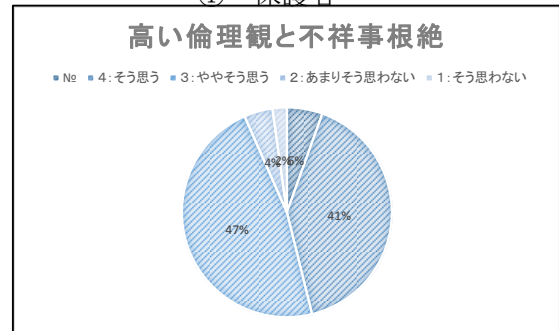
<分析>

3以上の評価が9割以上で保護者と教員の5割以上が4と評価していた。今後も、児童生徒、保護者、関係機関、教職員の人権を尊重しながら思いやりを持って指導支援にあたりたい。

① 教 員：常に高い倫理観をもって不祥事根絶に努めることができたか。

② 保護者：学校は、高い倫理観をもって不祥事根絶に努めていますか

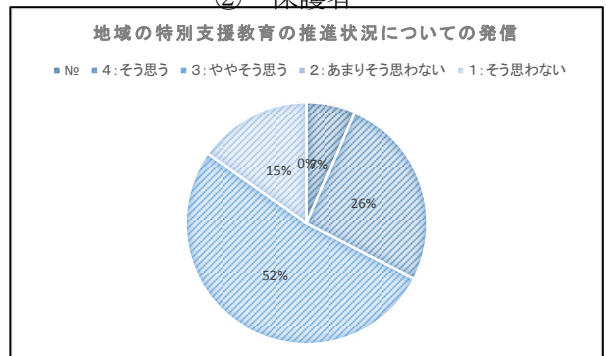
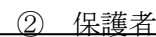
① 保護者



教員、保護者とも３以上の評価が９割程度である。特に教員の７割が４と評価していて、不祥事根絶についての意識の高さが感じられた。一方で保護者が４と評価している割合は５割程度に留まっている。これは、サービス倫理委員会等で行っている内容が保護者に十分に伝わっていないのではないかと推測する。今後は、学校通信等の発行も考慮しながら、サービス倫理委員会での取組の周知を図っていきたい。

(1) 地域の特別支援教育の推進状況についての発信

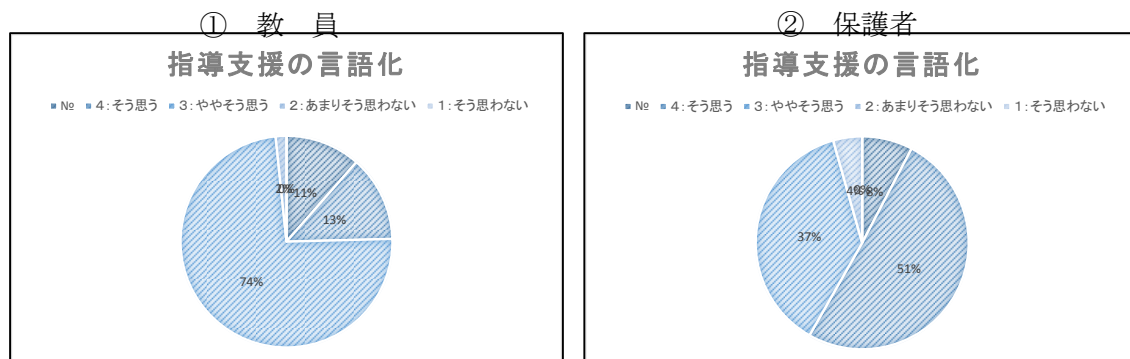
- ① 教 員



教員、保護者も３以上の評価が８割以上であるが、教員も保護者も３の評価の割合が多く、４の評価が３割程度である。教員、保護者も地域の特別支援教育の推進状況についての把握までにはいたっていないと考える。児童生徒の中には、小学校・中学校から本校に入学している児童生徒も多く、地域の小中学校及び高等学における校特別支援教育の推進状況については興味・関心を持っている方も多い。しかし、デリケートな情報も含まれているので、十分に情報を吟味し、地域支援センターを中心に情報を発信していきたい。

(2) 指導支援の言語化について

- ① 教 員：地域の特別支援教育の中心的役割を担うことを意識して、自分が行っている指導支援の言語化に努めることができたか。
- ② 保護者：学校の教職員は、日々の授業づくりや、児童生徒の指導支援についてわかりやすい言葉で説明をしていますか。

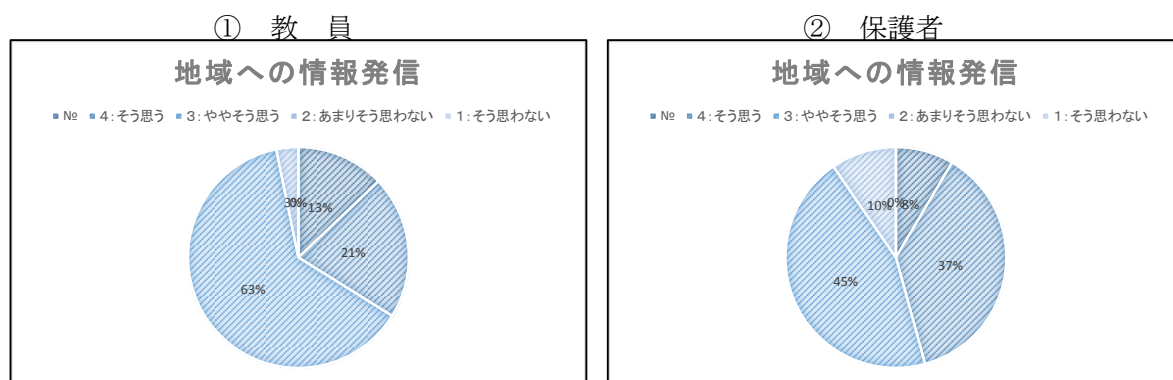


<分析>

教員、保護者とも3以上の評価が9割以上であり、保護者は4の評価の割合が高いが、教員は4の割合が少ない。これは、教員アンケートの質問項目に「地域の特別支援教育の中心的役割を意識して」という記載があり、より高度な言語化をイメージしていたと考える。また、保護者は、個別教育支援計画や個別の指導計画等を活用で、普段から教員より指導支援についての説明を受けているので、一定の評価を頂いているのではないかと推測する。地域の特別支援教育を推進するためには、特別支援教育の理念やその実践の理解啓発は不可欠である。今後とも、教員には、指導支援のわかりやすい言語化に努め、保護者や地域の関係機関との一層の連携を進めていきたい。

(3) 地域への情報発信

- ① 教 員：学校の取組や地域の特別支援教育に関する情報発信に努めることができたか。
- ② 保護者：学校は地域に本校での取組や特別支援教育の情報発信に努めていますか。

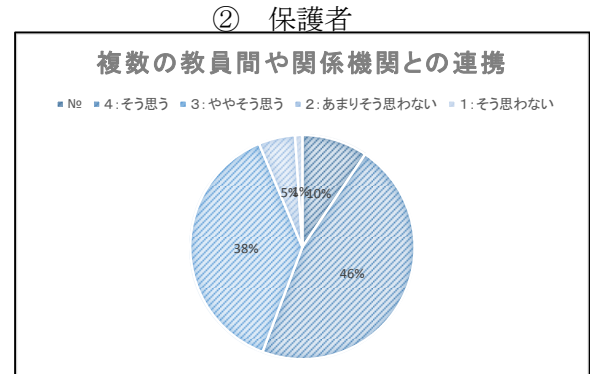
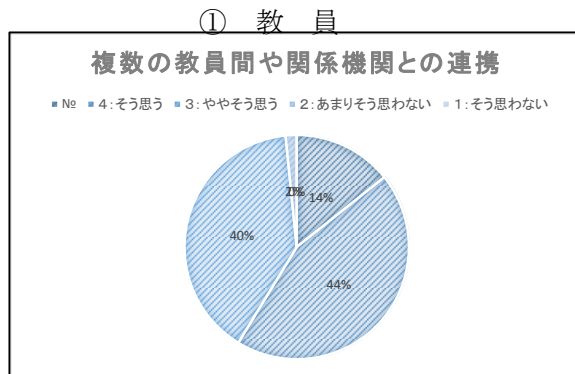


<分析>

教員、保護者とも3以上の評価が8割以上である。教員の方が3の評価が多い。「地域支援センターだより」等での発信を行ってきたが、更に内容などを見直したり、ホームページ等の活用を考えたりしながら、情報発信を充実させていきたい。

(4) 複数の教員間や関係機関との連携

- ① 教 員：校内においての、児童生徒に関する諸課題について、ケース会議を実施するなど、複数の教員間や関係機関が参加して課題解決を行うことができたか。
- ② 保護者：学校は児童生徒に関する様々な諸課題について、複数の教員間や関係機関と連携していますか。

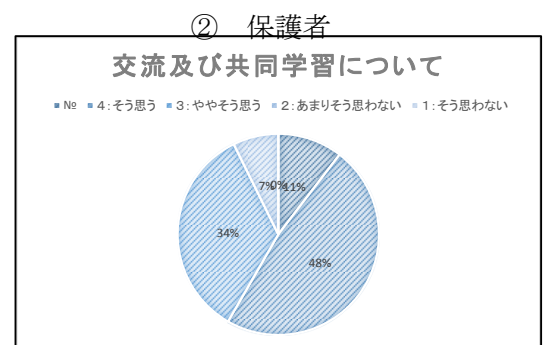
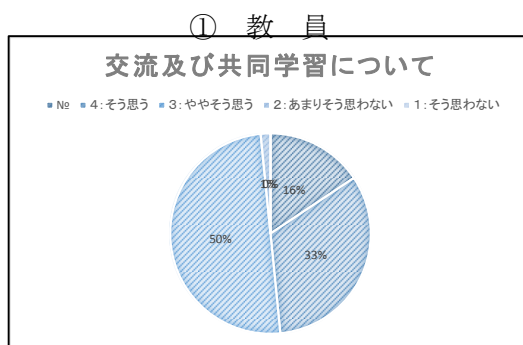


<分析>

教員、保護者とも3以上の評価が8割以上であり、3の評価や4の評価の割合についても差異は少ない。本年度になってから、校内のケース会議や関係機関を招聘しての支援会議の回数が増えて、支援のスピード感や教員間や関係機関の役割分担も明確になってきている。今後も、必要に応じてケース会議や支援会議を開催し、支援のスピード感や効果的な支援を行えるようにしていきたい。また、校内の会議の精選を進め教員の多忙化の解消につなげ、個別の教育支援計画や支援ファイル等を活用することで、教員間や関係機関との連携を強化していきたい。

(5) 交流及び共同学習について

- ① 教 員：地域との「交流及び共同学習」をととした学習に、その意義を意識し積極的に取組み、適切な指導支援を行うことができたか。
- ② 保護者：学校は、地域との「交流及び共同学習」を積極的に実施していますか。



<分析>

教員、保護者とも3以上の評価が8割を超えていて、一定の評価をいただいている。しかし、本校の交流及び共同学習の内容は、学校間交流、異世代間交流、異文化交流等であり、児童生徒が居住する地域との交流については進んでいない状況がある。インクルーシブ教育システムの推進を進めていくためにも、本校で学んでいる児童生徒が居住している地域との交流を模索していきたいと考えている。

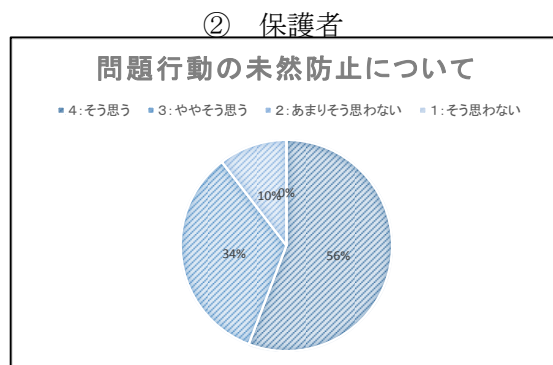
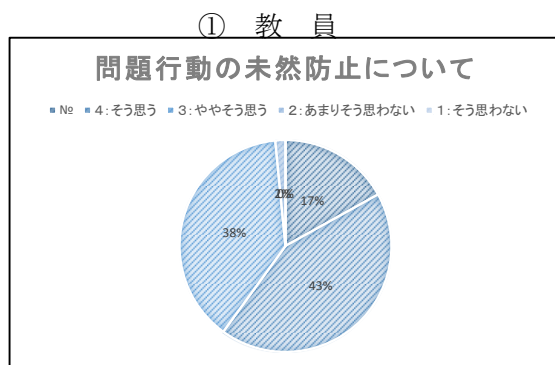
また、居住地交流を進めるためには相双教育事務所や市町村教育委員会等の連携も必要となるため、計画的組織的に対応を行っていきたい。

3 つづける：学校創立以来の良き伝統を受け継ぎながら、保護者の皆様が安心して子どもを学ばせることができる学校をめざす。

(1) 問題行動の未然防止について

① 教 員：児童生徒の問題行動を未然に防ぐために、教員間で連携し、児童生徒についての情報を共有し、ケース会議を開催することができたか。

② 保護者：学校は、児童生徒の問題行動を未然に防ぐために、家庭と連携を深め情報交換を密接に行っていますか。



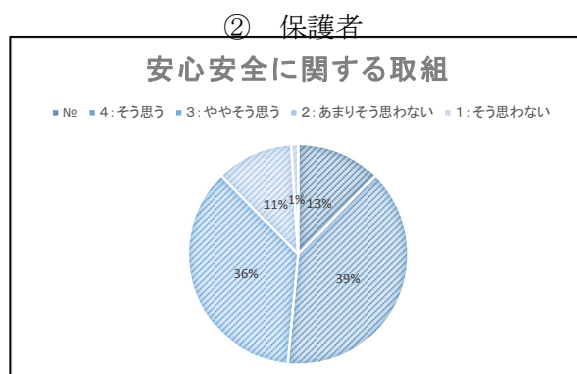
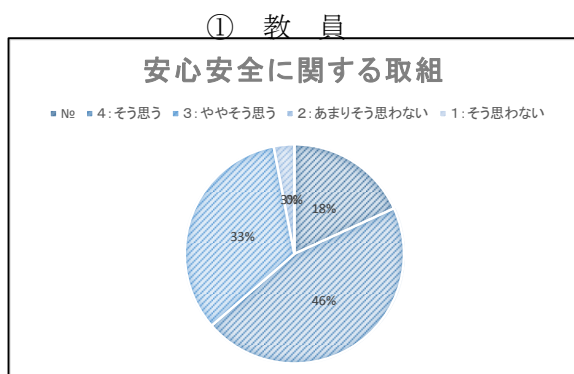
<分析>

教員、保護者とも3以上の評価が8割を超えている。特に保護者からは5割以上の方から4の評価をいただいている。今年度、生徒指導部を中心に、児童生徒の変化を読み取りながら、問題行動につながらないように指導支援を行ってきた成果ではないかと考える。また、今年度からケース会議を積極的に開催し、問題行動の背景要因や指導支援策の検討を行い、指導支援の方向性の確認を複数の教員間で行ったことも未然防止につながったと考える。今後も、積極的にケース会議を実施し、チームとして問題行動の未然防止に当たりたい。

(2) 安心安全に関する取組

① 教 員：教室環境や校舎内外における安全面への配慮や整備、安全点検を実施し、学校安全に関する取組を推進できたか。

② 保護者：学校は、教室環境や校舎内外における安全面への配慮や整備、安全点検を実施していますか。

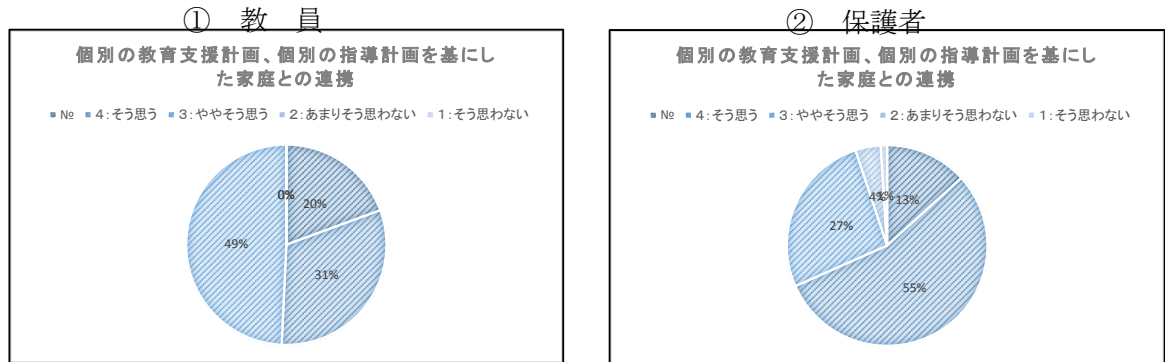


<分析>

毎月の安全点検を実施し、また複数の教職員で校舎内外の安全点検等に取り組んできた。3以上の評価も多いが、施設設備の老朽化からのハード面の不備を指摘する声もある。2020年度に移転新築を控えているので、今後も複数の教職員で安全点検を丁寧の実施し、学校の安心安全を担保したい。

(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画を基にした家庭との連携

- ① 教 員：個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基にし、基本的生活習慣に関する課題や指導支援の内容について家庭と連携して取り組むことができたか。
- ② 保護者：学校は、保護者と「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を基にし、基本的生活習慣に関する課題や指導支援の内容を確認していますか。



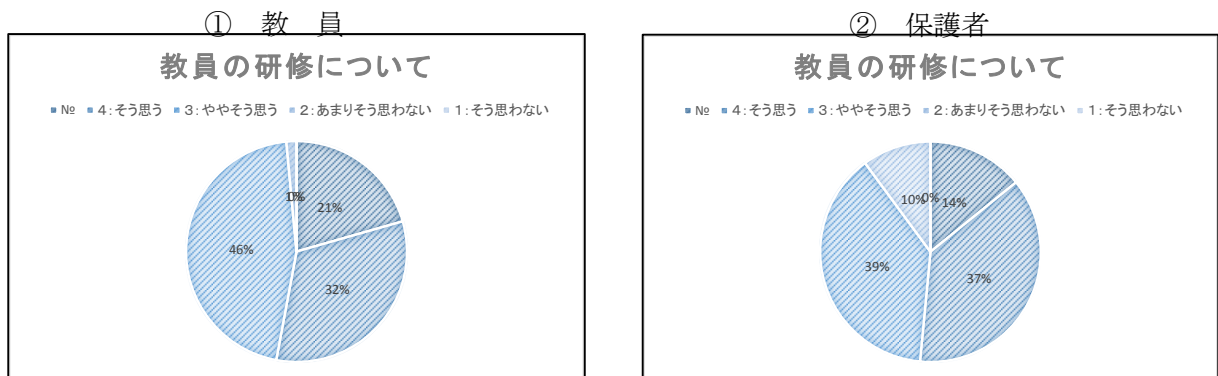
<分析>

教員、保護者とも8割以上が3以上の評価をしている。個別の教育支援計画、個別の指導計画を基にした家庭との連携が進んできたことが窺える。しかし、その活用方法や保管方法等については、改善の余地があると考えている。今後は、個別の教育支援計画、個別の指導計画の書式及び重要性について、教員や保護者及び関係機関と内容を確認しながら、連携のツールとして個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、指導支援の根拠としていきたい。

4 つみあげる：教員が児童生徒の障がい特性やニーズに応じた指導ができるよう、専門性と授業力の向上に努める学校をめざす。

(1) 教員の研修について

- ① 教 員：研究テーマに沿って、グループごとに研修を深めることができたか。
- ② 保護者：学校はグループごとに研修を深め、児童生徒に指導支援の充実につながっていますか。

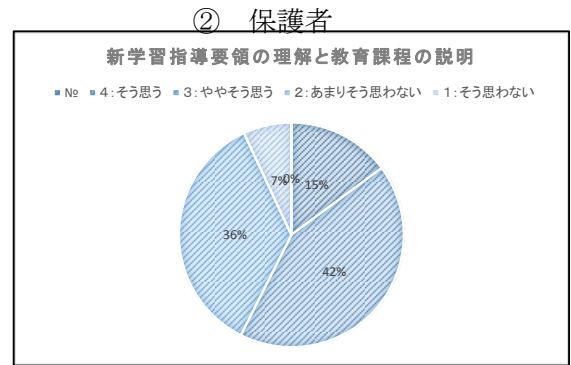
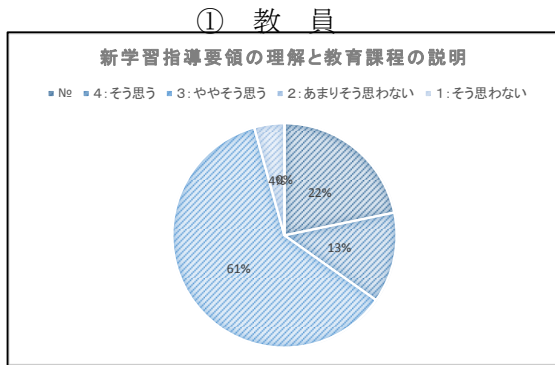


<分析>

教員、保護者とも8割程度が3以上の評価をしている。保護者は、教員がどのような研修をしているのか、その研修効果についての情報がなかったのではないかと考える。教員については、グループごとに研修テーマを掲げ、研修を行っているが、研修内容が深かまったかの実感がもてないのではないかと推測する。今後は、研修内容を見直し、保護者や地域へは校内研修の内容やその効果についての情報を積極的に発信していきたい。

(2) 新学習指導要領の理解と教育課程についての説明

- ① 教 員：新学習指導要領の内容を理解し、教育課程上の課題を考えることができたか。
② 保護者：学校は、児童生徒の教育課程について十分な説明を行っていますか。

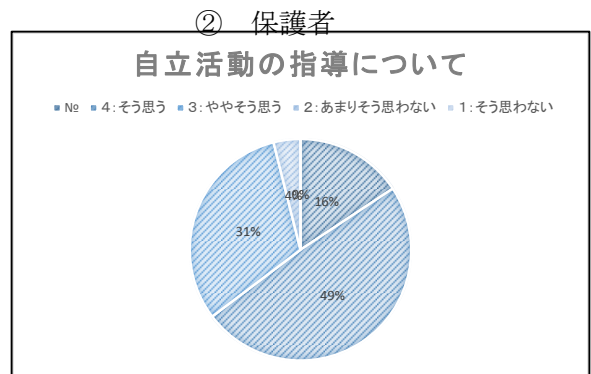
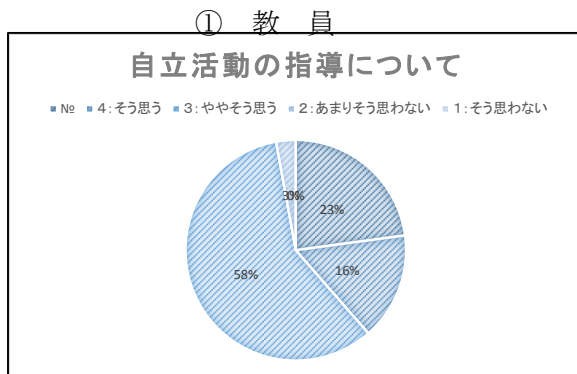


<分析>

教員は、3の評価が6割を超えているが、4と評価した教員は少なく、新学習指導要領の理解が進んでいない実態がうかがえる。今後も校内研修や教育課程や年間指導計画の見直しを積極的に行っていきたい。また保護者については、現在の教育課程については理解しているのではないかと考える。今後は新学習指導要領についての説明を十分に行っていきたい。

(3) 自立活動の指導について

- ①教 員：自立活動の6区分27項目を意識し、自立活動の指導内容を充実させることができたか。
②保護者：学校は個別の指導計画を基に「自立活動」の指導目標や指導内容、評価について十分な説明を行っていますか。

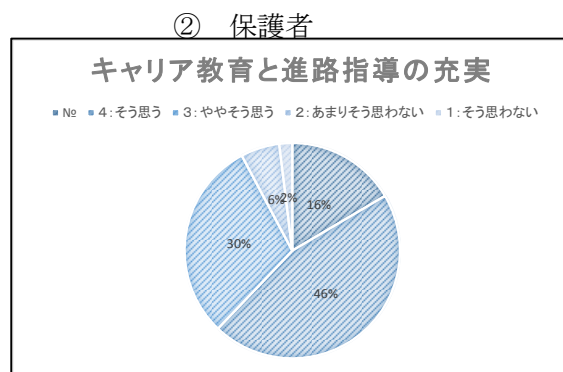
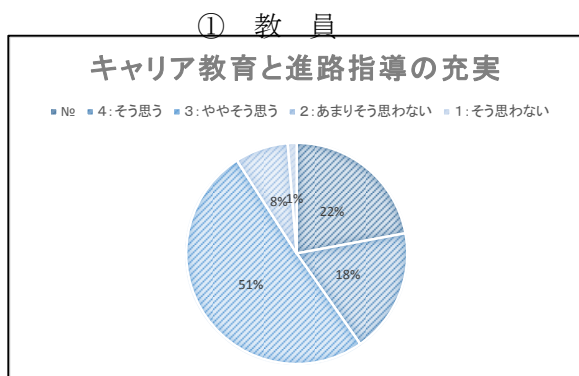


<分析>

新学習指導要領の理解と同じで教員は3の評価が多く、4と評価する教員が少なくなっている。これは、教員が自立活動の指導に対して少なからず不安を抱えているのではないかと推測する。一方保護者については、個別の指導計画における自立活動の指導目標や指導内容の説明等に一定の評価をしている。自立活動は特別支援学校の指導支援の要となる領域で、一層の専門性の向上が期待されるところである。今後も研修研鑽に励み、さらに専門性を身に付けていきたい。

(4) キャリア教育と進路指導の充実について

- ① 教 員：キャリア教育の充実を意識し、発達段階に応じた進路指導を行うことができたか。
- ② 保護者：学校は、家庭と連携して児童生徒の発達段階に応じた進路指導をすすめていますか

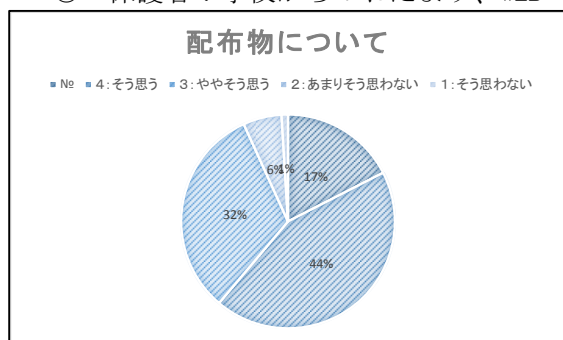


<分析>

教員は、3の評価が多い。キャリア教育を意識した進路指導を実施はしているが不安を抱えている教員も多いと考える。一方保護者については、進路指導についての評価は高い。今後は、新学指導要領の理解を進め、学びの履歴を十分に踏まえた作業学習や職業教育を充実させ、児童生徒一人一人の発達段階に応じた進路指導を展開していきたい。

5 配布物等について

- 保護者：学校からのおたより、WEB ページでの広報、学級たよりは読みやすいと思いますか。

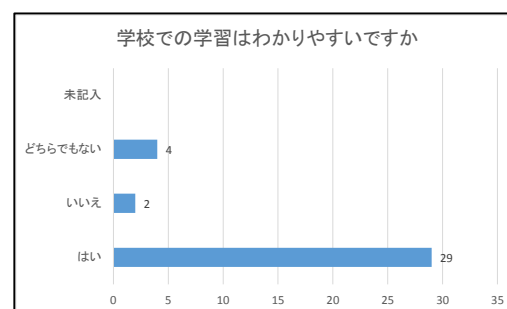
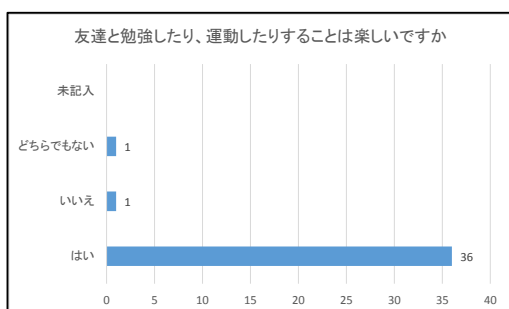
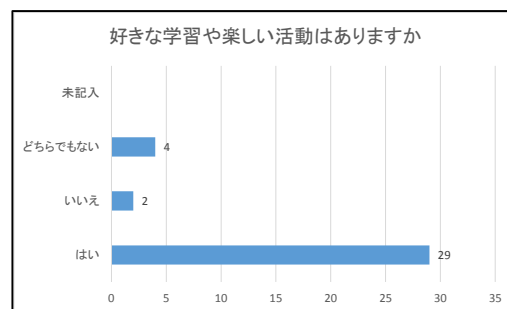
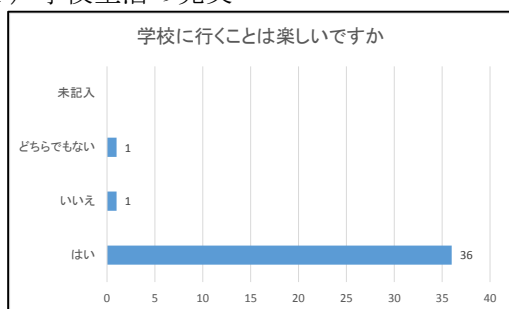


<分析>

配布物については、4、3の評価が8割を超えていて、高い評価をいただいている。今後は、学校活動の結果報告の留まらず、活動の意図や波及効果等をお知らせし、学校の活動状況を評価できる内容に改善をしていきたい。

6 高等部生徒の学校評価アンケートの集計結果

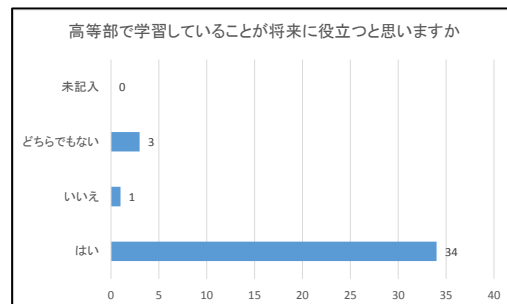
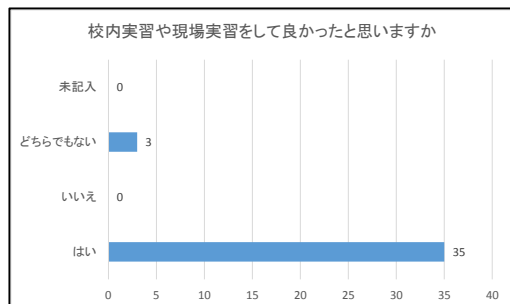
(1) 学校生活の充実



<分析>

高等部の生徒が学校に登校して、友達とかかわりながら学習を行っていて、且つ楽しんでいる様子が覗えた。ほとんどの生徒が高等部での学習がわかりやすいと評価している。今後は、新学習指導要領を意識し、難易度を落とすのではなく、学べき指導内容をわかりやすく提案していきたい。

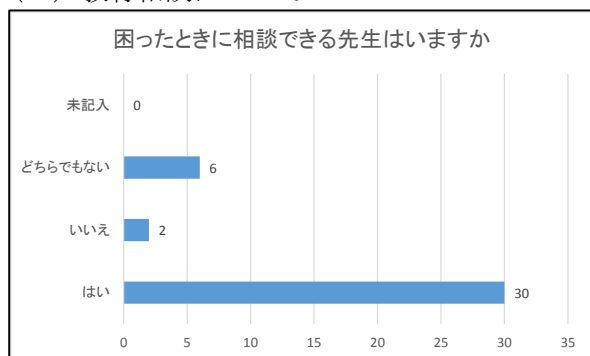
(2) 進路指導について



<分析>

進路に向けた産業現場等における実習の満足度が高く、自分の将来に役立つのではないかと考えている生徒が多い。その意味において高等部での作業学習、職業科、産業現場等における実習の内容の一層の充実が期待されている。また、高等部全体を通して進路に直結する自己理解や職業理解の課題についても向き合っていきたい。

(3) 教育相談について



<分析>

「どちらでもない」という回答した生徒が6名いる。今後とも、スクールカウンセラーや養護教諭と連携をし、ケース会議やスクールカウンセラーによるコンサルテーション等を実施し、教員の教育相談力を向上していきたい。

7 全体を通して

教員については、新しい学習指導要領を踏まえた教育課程の編成や年間指導計画の作成に若干の不安を抱えていて、3の評価が多い。これは、新しい時代に向けて、地域への特別支援教育の理解啓発を含めての役割が求められ、それに伴い責任も大きくなっている現れではないかと考える。一方保護者は、本校の教育活動については一定の評価をいただいている。その反面、地域の特別支援教育の推進状況について、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の効果的な活用や関係機関との連携については分からないことも多く、将来への不安も抱えていることがアンケートから覗える。

高等部生徒のアンケートからは、学校生活が充実している様子がうかがえた。そして、自分の進路と学校での学習活動が結びついている様子がうかがえる。キャリア教育の視点から日々の授業改善や進路実現に向けた取組の充実が期待されている。

学校としては、今回の学校評価で明らかになった課題について、来年度の学校経営運営ビジョンの策定に反映させ、学校組織として取り組んでいきたい。